

# 熊野方面史跡めぐり歌日記（3）

長崎史談会相談役 宮川雅一

<第3日目>

## 20、 道成寺 清姫偲び 巡るうち

### 富十郎の 供養碑に逢う

三日目の最初は、道成寺詣り。大宝元年(701)に創建された、国宝・重要文化財の仏像などがある古い寺院だが、能や歌舞伎になった安珍清姫の物語で有名。運転手さんの手配で階段を登らず済んだので境内をゆっくり散策するうち、長崎の興福寺で度々公演をして一昨年亡くなった五代目などの累代中村富十郎(女形)の供養塔に廻り合った。



道成寺の初代の釣鐘と鐘樓は、平安時代に安珍と清姫の事件で焼けたと言われ、それ以来です。朝時代に二代目の釣鐘が作られ、この場所に鐘樓が再建されました。これを題材に能楽や歌舞伎の道成寺物語が作られました。その二代目の釣鐘は、戦国時代の豊臣秀吉の紀州攻めの時に没収され、今は京都市の妙満寺にあります。

## 21、 紀三井寺 あえぎ登れば新旧の 観音居ます 第二番札所

次に訪れたのは、紀三井山金剛法輪寺護国院。通称、紀三井寺で知られ、西国観音霊場第二番札所。すこし離れた「レストランはやし」の駐車場から歩いて登る。三階建てのお城のような仏殿に納まる平成20年完成の巨大な黄金に輝く観音立像を下と上からしげしげと拝観してから、本堂に行ってご本尊の十一面観音像(重要文化財)に直面した。その後、前記レストランで鯛ちらし寿司にてんぷら・ソーメン・フルーツ付きの昼食をとる。



## 22、 将軍を 輩出したる 紀州には 藩祖(頼宣)も祀る 大東照宮

和歌山市内に入り、紀州東照宮に参拝。元和7年(1621)藩祖で家康の十男の徳川頼宣が創建し、いまは本人も祭神。当人自体は将軍にならなかったが、子孫に、八代吉宗をはじめ、九代家重、十代家治、十一代家齊、十二代家慶、十四代家茂と徳川将軍を輩出。



## 23、 紀州藩 五十五万 五千石 戦禍に消えし 城郭を偲ぶ

最後の研修地は和歌山城。平城であるが、本丸は標高48.9mの虎伏山の頂にあって、そこまで登るのに苦労する。復元された鉄筋コンクリートの天守郭にエレベーターを期待したが、なし。最後の力を振り絞って最上階に登り、和歌山市内をしばし眺望した。



## 24、 紀伊半島 研修旅行の 三日間 バス六百キロ 徒歩三万歩

親切運転手の大阪案内ガイドを聴きながら、飛行機の出発予定時刻には充分余裕を持って空港に帰り着く。思えば3日間よくバスで走り、よく歩いた旅であった。伊丹での解散式で会長から今回の旅で幹事役を務めてもらった福田副幹事長・原口幹事・栗原幹事(会計)に感謝の言葉が述べられ、一同大拍手。長崎空港帰着は定刻午後7時55分。今回を以って第五回長崎史談会研修旅行「熊野方面史跡めぐり歌日記」(2013年9月10~12日)を終わります。